



Progress report 2016 - 2019 進捗状況報告2016-2019

Name of UNESCO Global Geopark (UGGp):

室戸ユネスコ世界ジオパーク

Country:

日本

Person(s) responsible for the report:

ジオパーク (UGGp) 名: 室戸ユネスコ世界ジオパーク

国: 日本

報告書責任者 和田庫治 (室戸ジオパーク推進協議会事務局長)

A. GENERAL INFORMATION 基本情報

面積 km ²	248.20km ²
人口	13,451 (2018 年 11 月現在)
ユネスコ世界ジオパーク認定年	2015 年
GGN 加盟年	2011 年
以前の審査日程および審査員名	2015 年 7 月 14 日～16 日 審査員: ニコラス・ゾーロス アンチェル・ベルモンテ・リーバス
連絡先 (氏名、職務上の肩書、メール)	和田庫治 (室戸ジオパーク推進協議会事務局長) info@muroto-geo.jp
ウェブサイト (URL を記載)	https://www.muroto-geo.jp/en/
ソーシャルメディア (すべて列記)	Facebook 日本語 (@murotogeopark) Facebook 英語 (@MUGGP) Twitter 日本語 (@murotogeopark) Instagram 英語 (@murotougpp)

B. LIST OF DOCUMENTS SUBMITTED BY THE UGGp UGGp の提出書類一覧

プログレスレポート 2016-2019

自己評価票 A・B

GGN 年次報告 (2016, 2017)

Annex1: 自己評価票 A に対する添付文書

Annex2: サイト一覧表

Annex3: 学術奨励研究助成金採択リスト

Annex4: 学術文献リスト

Annex5: 室戸市の遺産リスト

Annex6: 室戸ジオパーク推進協議会組織図

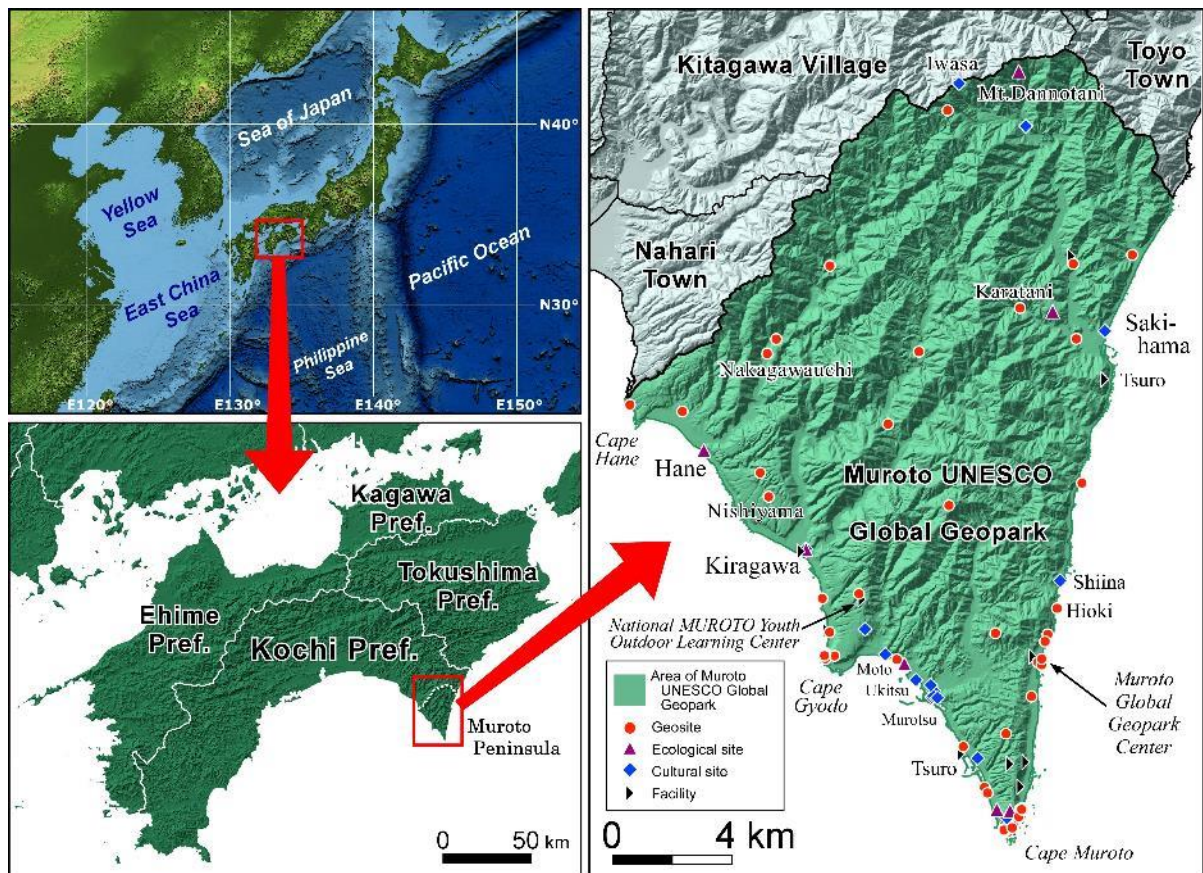
Annex7: 実行計画 2016-2019

Annex8: 室戸ユネスコ世界ジオパーク基本構想

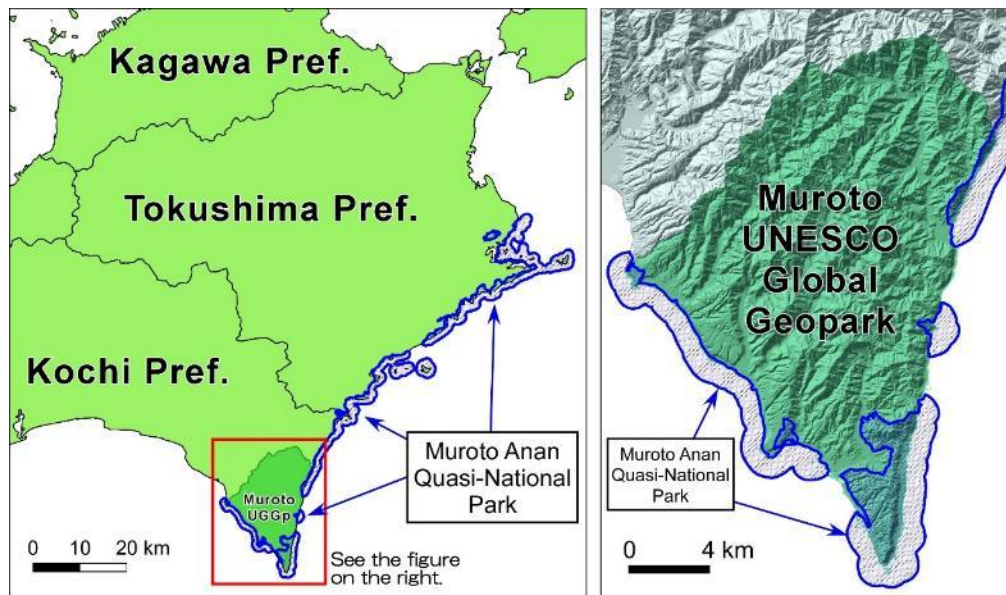
Annex9: 室戸 UGGp ガイドツアー・体験プログラム一覧

C. MAP OF THE AREA 地域の地図

室戸ユネスコ世界ジオパーク（以下、室戸 UGGP）の領域は、高知県室戸市の行政区域に一致する。飛び地は存在しない。



地図 1：室戸ユネスコ世界ジオパークの位置とサイト・拠点施設の分布



地図 2：室戸阿南海岸国立公園の位置

D. IMPROVEMENTS MADE ON PREVIOUS RECOMMENDATIONS

現在の状況：グリーンカード(2015 年)

Recommendation1

More work is needed to improve the inventory and assessment of the geosites. An accurate definition of different types of sites of interest could be useful for a better management and use of the territory. The use of the term “geosite” could be reconsidered and other terms could be used for cultural and ecological sites. The sites of interests within the Muroto Global Geopark could be divided into groups of sites with geological (geosites, i.e. Cape Muroto), ecological or cultural interest (i.e. Kiragawa Town). For example: the town of Kiragawa, considered now as a “geosite” could be divided into three elements, as one geosite (the fault scarp), one ecological site (the orchids growing from tree branches) and two cultural sites (the shrine and the village).

ジオサイトのリストと評価の改善に取り組む必要がある（ジオサイトの見直しが必要である）。ジオパークをよりよく管理運営していくためには、対象となるサイトを異なるタイプに分け、適切な定義をすることが有効であろう。「ジオサイト」という用語の使い方を再検討し、文化的サイトやエコロジカルなサイトには、他の用語を使用すべきである。室戸世界ジオパークのサイトは、地質学的なサイト（ジオサイト、例：室戸岬）、エコロジカルまたは文化的サイト（例：吉良川）に分けることができる。例えば吉良川まちなみは、現在「ジオサイト」とされているが、ジオサイト1つ（断層崖）、エコロジカルサイト1つ（木の枝から成長する蘭）、文化的サイト2つ（神社と村）といった3つの要素に分けることができる。

対応：前回の指摘事項を受けた直後から、ジオサイトのリストと評価の改善に取り組んだ。それまで 22 の「ジオサイト」であったものを、51 のジオ(地質)サイト、10 のエコ（生態系）サイト、17 のカルチュラル（文化）サイトを新たなサイト（計 78 のサイト）として設定した（Annex2 参照）。旧サイト設定では広い範囲でかつ複数の要素を含むものがあつた。そうしたサイトに関しては、その場所にある個別のポイントや、カルチュラルサイトに分類される寺院などをそれぞれ上記 3 つの分野にカテゴリー分けし、より限定的かつ具体的なサイト整理をおこなった。

Recommendation 2

Other important elements interesting for visitors such as the Global Geopark Visitor's Center, the Terraces observation platforms on the National Muroto Youth Outdoor Learning Center should be also promoted and used as Global Geopark information and starting-points for activities. Assemblages of sites of interest such as the Kukai's Pilgrimage route, should be promoted in association with the various geo-sites, eco-sites and cultural sites of the Global Geopark, which lay along the route.

世界ジオパークセンター、「国立室戸青少年自然の家」内の段丘が見える展望所のようにビジターが関心を寄せる重要な要素も、活動の開始地点として活用し、また世界ジオパークの情報として普及し活用すべきである。遍路道のようにサイトが集まっているようなものは、道中にある世界ジオパークの多様なジオサイト、エコサイト、文化サイトと関連づけて推進すべきである。

従来拠点施設としての機能を果たしていた 2015 年開所の「室戸世界ジオパークセンター」に加え、室戸 UGGp 域内に存在する 9 つの関連施設を含めて 10 ヶ所の拠点施設を設定した (Annex2 参照)。「国立室戸青少年自然の家 (以下、自然の家)」もその中に含まれ、複数の体験プログラムやツアーのスタート地点として活用されている。自然の家が持つ備長炭生産体験用の窯を利用した体験プログラムを実施した際には、プログラムの中に展望デッキからの海成段丘を観察する行程も取り入れ、その形成過程の説明も合わせてツアーに組み込んでいる。

2016 年に新たに開発された「灯台ぐるりウォーク」は、室戸岬の山の中腹に位置する室戸岬灯台まで遍路道を歩く軽いハイキングツアーである。このツアーは、室戸岬の遊歩道を歩く「室戸岬ツアー」と合わせての参加が推奨されている。室戸岬遊歩道でのツアーが複数のジオサイトとエコサイトを取り入れた案内をする一方で、「灯台ぐるりウォーク」コース内には、室戸岬灯台 (岬 23) や最御崎寺 (岬 24) などカルチュラルサイトに指定されている場所がある。さらに道中では植生についての知識も得られ、沿岸部で説明された地震による隆起を実感できる。これら 2 つのツアーは、多様なジオサイト、エコサイト、カルチュラルサイトと関連づけて PR されている (Annex9 参照)。

Recommendation 3

Nearly all the geosites are concentrated on the coast. There is still potential to increase the number of geosites inland in the mountains. Extending the number of geosites in the wider area would bring more opportunities for geotourism, increasing the "things to do list" in the Global Geopark with the obvious benefits for accommodation providers, restaurants, etc.

ほぼすべてのジオサイトが海岸近くに集中している。内陸の山間部には、まだまだジオサイトを増やせる可能性がある。さらに広いエリアでジオサイトの数を増やすことによって、宿泊業者、レストランなどに明らかに利益をもたらし、世界ジオパークでの To do リストを増やし、ジオツーリズムにとっても、機会を増やすことができる。

2017 年度にサイト見直しを行い、山間部に新たに 6 ヶ所のジオサイト、2 ヶ所のエコサイト、2 ヶ所のカルチュラルサイトを設定した。見直し以前からサイトであった巨大天然杉が群生している山間部の「段の谷山」 (佐 08) はエコサイトに指定された。そこでは以前から地元ガイド団体によるトレッキングツアーが実施されていたが、2014 年からは新規ガイド確保のための養成講座が毎年開催されている。

Recommendation 4

The importance put on Muroto Cape in the Global Geopark is too heavy. For sure it is a place of high interest, but the Global Geopark should try to encourage visitors to other less known areas.

室戸世界ジオパークの中で室戸岬に重点を置きすぎている。確かに、室戸岬は興味深い場所であるが、室戸世界ジオパークは、あまり知られていないエリアにビジターをいざなう努力をすべきである。

地域住民によって組織されている「ジオツーリズム推進チーム」(E.6.参照)が、「港の上まちあるきツアー」(室戸市の中心部に位置する港町を巡る)と「収穫体験ツアー」(海成段丘である西山台地の段丘面にある農地で芋掘りをし、食べるツアー)を2014年から毎年複数回、季節限定ツアーとして継続して実施してきた。「港の上まちあるきツアー」に関しては、2018年実働ガイド数が増加した。さらに「収穫体験ツアー」はそれまで西山台地でのみ行われていたものを、崎山台地でも実施し、複数の場所で開催している。

一般の観光客にとっては室戸岬以外の場所を訪れたり、情報を得たりする機会が少ないため、上記のツアーについては室戸世界ジオパークセンター受付での周知、室戸市外の大型ショッピングセンターやタウン情報誌などにPR記事を掲載するなどし、多くの方の目に止まるように工夫している。こうしたPRにより、室戸UGGを訪れる観光客らは、室戸岬以外の地域を周遊するいい機会を得ることができている。

Recommendation 5

Structural geological features, at Muroto Cape such as faults, should be integrated in the geosite interpretation of the area. At Muroto Cape there are small scale tectonic structures that can contribute significantly to the interpretation of the deformation processes and off-shore major structures of the accretionary complex.

室戸岬の断層のような構造地質学特徴は、ジオサイトのガイドに含めるべきである。室戸岬では、小規模の地殻変動構造があり、それらは変形過程と沖での大きな付加体構造のインタープリテーションに重要な役割を果たす。

室戸岬や行当岬における構造地質学的特徴を示す褶曲構造や断層に関する説明などは、すでにガイドツアー内に含まれている。さらに地震による大地の隆起の証拠を示すヤッコカンザシ巣跡(岬17)は、小中学生対象の教育ツアーでは必ず紹介されている。行当海岸では海底で起こった液状化の証拠である砂岩岩脈が観察できるが、その形成過程が砂、泥、水を入れたペットボトルを用いて説明されることで、ツアー参加者は視覚的にも理解することができる。吉良川地区の山間部(長者野)で見られる断層路頭を新たにサイトとして指定し、そのサイトを含んだ新たなガイドコースの開発のために室戸市内のガイド団体及びマスター講座修了者を対象にしたフィールドワークを地質と地理専門員主導のもと実施している。

Recommendation 6

The management structure should be clearer, especially what concerns the new development of the Global Geopark Promotion Team. It would be useful to identify a person in charge of each one of the five commissions, to make this team more efficient.

管理運営構造、特に新たに開発された室戸世界ジオパーク推進チームに関して、もっと明確にすべきである。5つのチームの担当責任者を明確にすることで、チームをもっと効果的に動かすことができるだろう。

室戸ジオパーク推進協議会の実行計画(2016-2019)の5つの取組項目「まもる」「まなぶ」「もてなす」「かせぐ」「ひろめる」と連動した5つの推進チームが、地域住民を中心に編成されている。それらチームに属す地域住民らは実行計画策定にも参加しており、地域住民らによって策定された実行計画が地域住民らによって実践されている。2017年度には各チームのリ

ーダーが、各分野に関する知識や経験を持つ地域住民の中から選出された（実行計画については Annex7 を参照）。

Recommendation 7

The science advisory committee should be enlarged and include also specialists from currently absent Earth-science disciplines and landscapes specialists. Scientists with a broader sense of the landscape are needed to improve the interpretation of the Global Geopark surface sites of interest. It is difficult for Global Geopark visitors to understand all the important scientific research of the KCC, as the deep seafloor structures and processes cannot be directly seen by the Global Geopark visitors.

科学的諮問委員会は、規模を拡大し、現在欠いている分野の地球科学や地形の専門家も含めるべきである。室戸世界ジオパークの地形についてのインタープリテーションを改善するために、地形についてさらに広い視野を持った科学者が必要である。世界ジオパークのビジターは、深海の改定の構造やプロセスを直接見ることができないので、KCC(高知コアセンター)の重要な科学研究をすべて理解することは困難である。

2017 年度より「専門アドバイザー」制度を設け、構造地質学、生物学、植物学、国際ネットワークの専門家をそれぞれアドバイザーに任命した。さらに地形学の専門家に関しては事務局の専門員として勤務している。新サイトリスト設定に関しては、顧問を含めそれら専門アドバイザーと協議、設定作業を進めた。サイト見直しに係る学術的な観点からの意見や、その他協議会運営などの事項に関して、アドバイザーらとより円滑に協議する仕組みとして、専門アドバイザー、顧問、事務局間でのメーリングリストを作成し、活用している。

Recommendation 8

The Muroto National Youth Outdoor Center is of great value for the Global Geopark that should be further exploited, making Muroto Global Geopark a big playground for children of the whole country. The existing cooperation should be enlarged with more activities and education programmes for school classes and for University students. The exceptional conditions of Muroto together with the quality and size of the center facilities could make this possible. It could be also used for school and University group exchange. It is an ideal infrastructure for hosting school groups from other Global Geopark.

国立室戸青少年自然の家は、室戸世界ジオパークにとって非常に価値のある施設であり、さらに活用し室戸世界ジオパークを国中の子どもたちの楽しみの場とすべきである。もっと学校の授業や大学生の教育プログラム、活動などを推進し、すでにある協働関係をさらに拡大すべきである。室戸は並外れた好条件の場所なので、国立室戸青少年自然の家の質と規模があれば、達成は可能である。学校、大学の交流の場にも活用することができる。他の世界ジオパークから学校の集団を受け入れるのにも理想的な施設である。

2016 年 3 月に自然の家と連携協定を結び、自然の家で実施される体験学習プログラムが増加している。自然の家との共催プログラムである「体験！発見！ジオパーク」は、自然の家の宿泊棟を利用した 1 泊 2 日の行程で、大地の成り立ち現地学習、災害時の避難体験などをテーマにこれまで複数回開催されている。この協議会と自然の家の共催プログラムは、今後も継続して実施される。

Recommendation 9

Special care should be taken for the establishment of collaboration with other Global Geoparks. The close collaboration with other Global Geoparks, like the exchange of visits and building of common activities will improve Global Geopark operation and activities. The support of the GGN and advice from GGN experts can be sought in order to solve certain problems and explore new opportunities for alternative Global Geopark activities.

他の世界ジオパークとのコラボレーション構築について、特別な配慮が必要である。相互関係や共同活動の取り組みなど、他の世界ジオパークとの親密な関係づくりは、世界ジオパークの運営や活動の推進につながる。問題解決や世界ジオパーク活動の新たな機会づくりのために、GGN(世界ジオパークネットワーク)のサポートやGGN専門家のアドバイスを求めることができる。

室戸 UGGp は 2018 年 10 月、ランカウィユネスコ世界ジオパークと連携協定を結んだ。2013 年の APGN シンポジウム以来、Skype ミーティングや地域の子どもたちが作成したアート作品のやりとりをするなどして、限られた予算の中で地域住民レベルでの交流事業を積極的に展開してきた。

今後具体的な共同プログラムとして、skype ミーティングの頻繁な実施、1 つのパンフレットの作成など、予算をかけずとも十分な交流の成果が期待できるプログラムについて計画が進んでいる。

Recommendation 10

Active participation in GGN conferences, meetings and capacity building activities is also important as this contribute significantly to the distribution of best practice, exchange of know-how and further supports the development of the Global Geopark.

GGN 会議、会合、キャパシティ・ビルディング（能力強化）活動への積極的な参加も重要である。参加することによって、成功事例の紹介、ノウハウの情報交換などに貢献でき、室戸世界ジオパークの発展につなげることができる。

GGN 及び APGN 会議には事務局員及び協議会会員は毎回出席している。とくに APGN 地域における準備地域へのキャパシティ・ビルディング活動を積極的に展開している。

- ランカウィ UGGp で 2016 年から毎年開催されている地域研修会(Regional Course on UNESCO Global Geopark)に継続して参加し、室戸 UGGp の成功事例、運営に関するノウハウをシェアしている。2018 年は事務局員に加え地元ガイド 1 名が参加し、ガイド活動に関するより具体的な経験のシェアがなされた。
- 日本国内の他の UGGp 地域と連携して「キャパシティ・ディベロプメント・プロジェクト」を 2016 年から実施。2016 年には国際交流専門員がサブリーダーを務め、アジア太平洋地域への国際会議参加及び口頭発表支援、ブース出展、ワークショップ開催などに取り組んだ。さらに 2017 年にはアジア太平洋地域のジオパーク準備地域を JGN 全国大会に招聘する事業も実施し、当該地域スタッフらのキャパシティ・ビルディングに努めた（E. 8 の「共同プロジェクト」の項目も参照）。

Recommendation 11

The dissemination of news about Muroto Global Geopark activities will help to promote the Muroto Global Geopark internationally.

室戸世界ジオパークの活動についてのニュース配信によって、室戸世界ジオパークを国際的に推進することができる。

室戸 UGGp の活動について、以下の媒体を通して常に情報発信している。

GGN ニュースレター記事寄稿: 2016 ISSUE-1, 2017 ISSUE-1, ISSUE-3, 2018 ISSUE-2

GGN ウェブサイト記事寄稿: 2016 年 8 月、2017 年 4 月

室戸ジオパークの活動発信のためのウェブツール:

公式ホームページ(日英)、Facebook(日英)、Twitter(日)、Instagram(英)

E. VERIFICATION OF UGGp CRITERIA ユネスコ世界ジオパーク基準の検証

E.1 TERRITORY 領域

E.1.1 GEOLOGICAL HERITAGE AND CONSERVATION 地形地質遺産および保全

室戸 UGGp は世界で最も新しくかつ研究されている付加体を持つ。付加体はプレートの沈み込みによって形成され、大陸プレートと海洋プレートの境界に位置している。砂岩泥岩互層で構成される付加体は、海洋プレートの動きによって変形させられ南海トラフに押し付けられている。このような地殻変動が室戸岬の地形景観を形成している。その大きな例として海岸に沿って連続的に海成段丘が分布している。室戸 UGGp は付加体の形成、付加体へのマグマの貫入、付加体の上への堆積作用および付加体形成に伴う隆起によって特徴づけられている。

保全対策

室戸 UGGp の大部分の地形地質遺産は自然公園法（特に室戸阿南海岸国定公園）、文化財保護法、室戸市文化財保護条例、室戸市環境基本条例によって保護されており、室戸 UGGp 設立以降は地域住民を中心に行政の協力のもとで保全されてきた。

室戸 UGGp では地元ガイドらによるサイト巡回が定期的に行われている。室戸 UGGp のガイドはほぼ毎日ガイドツアーを行っているが、それがサイト巡回となることで保全対策が取られている。そして、ガイドが後世への遺産として各サイトを大切に守っていることを訪問客や地域住民へ伝えることで保全の輪も広がっている。一方でツアーが実施されずに監視の目が少ないサイトでは、専門員による定期的な巡回が行われている。

室戸 UGGp では専門員が研究者の試料採取の相談窓口となっており、地質資源の保全や景観に配慮した試料採取のアドバイスや現地調査への立会いを行うことで過剰な試料採取を防止している。

保全対象となった新しい地形・地質学的特徴を持つサイト

先述のように室戸 UGGp では 2017 年度にサイト見直しを行い、多くの地形地質学的特徴を持つサイトが新たに「ジオサイト」に設定された。そうした新しいサイトのほとんどは、もともと範囲が広すぎたサイトが細分化され誕生した（たとえば旧サイトでは「室戸岬」というサイトでしかなかったが、新しいサイトでは「室戸岬のタービダイト層」や「室戸岬のタフォニ」など具体的な地質遺産をサイトとしている）。そのため、旧サイトの範囲内に位置していた新たなサイトについてはすでに保全対象となっている。上記を除き、全く新たに設けられた保全対象となるジオサイトは以下の通りである（詳しくは Annex2 参照）。

中川内の河成段丘集落(羽 04)、羽根川の環流丘陵 (羽 05)、羽根川の河川段丘堆積物 (羽 06)、佐喜浜メランジュのハンレイ岩(吉 06)、長者野の断層露頭 (吉 07)、三津扇状地(岬 26)、唐谷の滝(佐 04)

E.1.2 BOUNDARIES 境界線

境界を示す地図は C の通り。室戸 UGGp の領域は、高知県室戸市の行政区域に一致しており、境界は明瞭で、飛び地は存在しない。ガイドマップ、パンフレット、案内看板では、ジオパークの領域に着色したり、領域のみを表記したりすることで、境界線を示している（右図）。

E.1.3 VISIBILITY 可視性（ビジビリティ）

室戸 UGGp 範囲の出入り口にはそれを示す看板が設置されている。さらに域内を走る唯一の公共交通機関であるバスのラッピング広告には室戸岬の風景写真が、主要停留所には室戸 UGGp のロゴマークが設置されている。

さらに室戸 UGGp の 10 の拠点施設には室戸ジオパークロゴマークもしくはのぼり旗がエントランスに設置されており、内部には他の拠点施設について紹介するポスターやジオパークコーナーが設置されている。2011 年から室戸ジオパーク推進協議会が販売するジオパークポロシャツは、2018 年までに販売累計枚数が約 7,500 枚となっている。名称、ロゴマーク、イラスト化された主要なサイトがプリントされており、地域住民が着用するだけでなく、制服として採用する市内の民間企業も複数ある。

各サイトに設置されている案内看板は、そのサイトの地質的な成り立ちや文化的な背景を日本語と英語で説明するものであるが、新サイト設定に伴い 9 基が新たに設置される予定である（2019 年 3 月完成予定）。

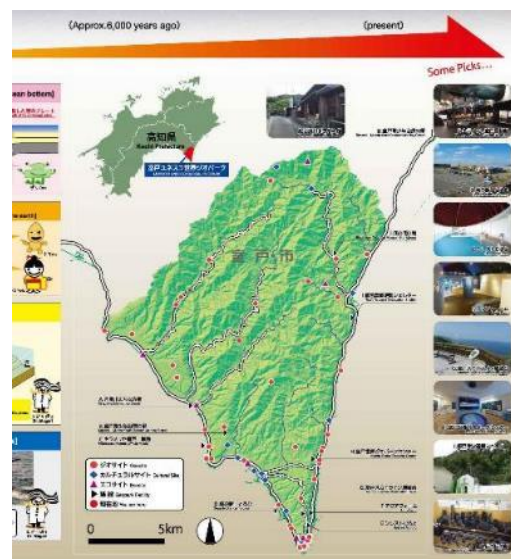
室戸市外の「見える化」も進んでおり、空路の玄関となる高知空港は室戸 UGGp コーナーを設置している。さらに室戸 UGGp に最も近い空港である高知空港近くに位置するカフェ兼物販所である「土佐力舎」とは連携協定を締結しており、室戸 UGGp のパンフレットや地図を配布・設置している。大阪―室戸を結ぶ高速バスの停留所に「室戸世界ジオパークセンター」が新たに加わった。

ウェブ・SNS 情報

公式ホームページは日英で情報発信がされているほかに、facebook の日本語版と英語版、Twitter 日本語版、Instagram 英語版の SNS を利用している。

E.1.4 FACILITIES AND INFRASTRUCTURE 施設・インフラ整備

- 室戸世界ジオパークセンター：2015 年 4 月に「室戸世界ジオパークセンター」がオープンした。本施設は、室戸 UGGp のビジターセンターであるとともに、地域内へ周遊を促進する情報発信・観光拠点としての役割も担っており、各種ガイドツアーや体験プログラム（E.6 参照）の広報と受付の機能を持っている。センター内の展示物は双方向展示を取り入れ、文字情報はすべて日英併記されている。
- 吉良川まちなみ館：室戸 UGGp の拠点施設の 1 つであるとともに、吉良川のインフォメーションセンターとなっている。室戸 UGGp の連携パートナーでもある NPO 法人吉良川町並み保存会によって運営され、吉良川のまちなみガイドの発着地点でもある。室戸世界ジオパークセンターが提供しているレンタサイクルのサービス向上のため、吉良川まちなみ館にもレンタサイクルの貸出・返却機能が置かれ乗り捨てが可能になり、周遊性を高めている。



- 公衆トイレ整備：山間部のエコサイトである段の谷山天然杉群及び沿岸部の新村遊歩道に、それぞれ 2013 年と 2018 年に公衆トイレが整備されている。どちらも人気の高いサイトの出入り口に設置されており、観光客の滞在時間を延長している。
- バス停留所の英語表記：室戸市内を走る公共バスは、室戸 UGGp を訪れる観光客の大切な足として機能している。特に外国からの観光客はバスを利用する確率が高いため、室戸 UGGp の主要サイトの最寄停留所名を英語表記していく事業が、高知県東部交通と協議の末進んでいる。停留所名の英語表記だけでなく、バス内部の英語アナウンスの放送も決定している。

E.1.5 INFORMATION, EDUCATION AND RESEARCH 情報、教育、研究

情報共有

室戸 UGGp の基本情報（地質、自然、文化遺産）、イベント、各種体験アクティビティやガイドツアー実施に関する情報は、以下の場所や方法で幅広く一般に提供されている。

- 室戸世界ビジターセンターを含む拠点施設 10 ヶ所
- 室戸市観光協会
- 室戸市立市民図書館におけるジオパークコーナー
- 室戸市の広報誌である「広報むろと」で毎月記事掲載
- 「ジオパークだより」を隔月で発行
- 公式 HP 及び SNS(facebook, Instagram, twitter)での情報発信
- マスメディア（新聞、テレビ、ラジオ）を利用した情報発信

地質や自然遺産に関する情報に関しては、パンフレットや主要サイトに設置されている案内看板にて提供されている。それらは文字、写真、イラスト等を用いており、ガイドツアー実施時にも使用されている。ツアーガイドはそれ以外に自作のフリップや説明キットを使用することで、視覚でも情報を補いながら地質遺産の解説を提供している。

教育プログラム

- ジオパークマスター講座：地球科学、郷土史、ツーリズム、ネットワーク活動や SDGs などのテーマを扱い、幅広く「ジオパークとは何か」を考えるための一般市民向けの講座である。座学とフィールドのどちらも取り入れ、講師として室戸 UGGp の専門員、地域住民、他地域ジオパーク職員、専門アドバイザーらが講師を務める（2～3 年に一度開催）。
- 室戸 UGGp 内の小中学校におけるジオパーク出前授業：すべての小中学校を対象に、年に 2～3 時間の学習を実施している。地元ガイドと専門員が講師として野外学習、拠点施設見学、座学などを担当するが、その内容については学校が自由に決定できる。授業後にアンケートを実施することで、講師らの授業内容の振り返りが可能になるとともに、地域の小中学生のジオパーク理解と郷土愛の醸成など一定の成果が上がっていることがわかっている。
- ジオパーク学：室戸 UGGp 内の唯一の高等学校である室戸高校では、2011 年度から正規授業として「ジオパーク学」を開講している（週 2 時間、通年開講）。講師は地元ガイド、生産者、専門員らが務め地球科学から産業、人の営みまで幅広いテーマを取り扱う。生徒らは座学だけでなく調査研究、ガイドツアー開発、広報活動、商品開発などを実際に行う。一年間の総まとめとして学習発表会を、一般市民を対象にして行なっている。
- 室戸学：室戸高校一年次の正規カリキュラムの一つ（週 1 時間、通年開講）。生徒たちは室戸について学びながら、自己啓発的な体験学習や討論をなど通して、職業に必要な能力や姿勢を身につける。生徒たちは地質サイトを訪れることで、郷土を守るためにどのような活動がなされているのかを学習している。

- 体験！発見！ジオパーク(D.指摘 8 参照)：連携協定を結んだ自然の家と共同で計画・実施している小学生向けの教育プログラムであり、自然の家の職員と地球科学の専門員が講師を務める。野外学習を中心に、防災や大地の成り立ちなどのテーマに沿って町を歩いたり、施設見学をしたりして体験しながら学習する。
- 防災まちあるき学習：放課後児童クラブ（学童保育）に所属する児童らを中心に、ハザードマップをもとに小学校近辺の避難路を実際に歩くことをメインに、地震・津波発生時の動きについて確認する新たな取り組みを 2018 年から行なっている。講師は地形学の専門家である地理専門員と、室戸市防災対策課の職員が担当している。



研究

- 2015 年に室戸世界ジオパークセンター内に高知大学サテライト教室（ラボ）を設置、2016 年には博士学位のあるジオパーク専門員 1 名に高知大学客員講師の名称を付与するなど、高知大学と室戸 UGGp は研究・教育にかかわる様々な事業で連携している。
- 室戸ジオパーク推進協議会、高知工科大学地域連携機構、高知コア研究所の間で 2011 年に基本協定を締結し、三者の研究・教育事業を推進している。
- 河川水質・生物調査：2016～2017 年度に、室戸 UGGp 域内の小学生と地域住民が自分たちの住む町の河川の水質とそこに住む生物調査を行う調査研究を実施。河川水質の時系列変化を透視度および水生生物（示標種調査）の種類をもとに水質を評価する。
- 野生動物調査：地域住民らが野生動物の生態について調査する研究活動が、生物学の研究者である四国自然史科学研究センター長である谷地森秀二博士とともに実施されている。「生き物ウォッチング」という体験プログラムがこの調査活動に組み込まれている(E.5. 教育体験プログラムの項も参照)。
- 希少植物/外来植物調査：市民らが植物学の研究者とともに調査研究を行うプログラムであり、希少植物の保護も行なっている。
- 研究奨励助成金制度：2018 年から新たに立ち上げた助成金制度は、室戸 UGGp 及び室戸市を対象にしたあらゆる分野の研究に対して、25 万/1 件を限度に研究費を助成するプログラム。2018 年は 9 件の応募があり、うち 5 件が採択された。2019 年 3 月に一般市民に向けた研究報告会を予定している（Annex3 参照）。
- その他研究活動：日本国内の大学及び大学院生の卒業研究、修士論文研究をサポートしている（Annex4 参照）



E.2 OTHER HERITAGE その他の遺産

自然、文化遺産（有形及び無形）については Annex5 を参照すること。

E.2.1 NATURAL HERITAGE 自然遺産

室戸 UGGp ではプレート運動による隆起の痕跡と、温暖多雨な気候の影響を強く受けた場所や地質・地形遺産をジオサイトとして指定している。さらにはエコサイトとして、アコウ

(*Ficus superba* var. *japonica*)などの室戸岬亜熱帯性樹林及び海岸植物群落や、ミズキンバイ(*Ludwigia stipulacea*)、ボウラン(*Luisia teres*)などの希少植物群落の自生地、コウモリの生息地などが指定されている。これらの動植物種は、希少性を理由として既に多くのものが法律や条例などにより保護・保全対象となっており、サイトの多くは、自然公園法による指定地域である室戸阿南海岸国定公園(1964)、文化財保護法により指定された名勝室戸岬(1928)及び天然記念物室戸岬亜熱帯樹林及び海岸植物群落(1928)などにより保護されている。

2015年からは野生動物の分布と生態調査、希少植物の分布調査などを地域住民が専門家と協力して行っており、貴重な自然遺産の理解と価値の共有が進んでいる(E.1.5.研究の項目参照)。

E.2.2 CULTURAL HERITAGE 文化遺産

厳しい自然環境と向き合いながら、人々が育んできた産業や文化、またその歴史を感じられる場所や史跡をカルチュラルサイトに指定している。

例えば真言宗の開祖である弘法大師(空海)は、約1200年前に四国各地で修行を行い、悟りを開いたと信じられている。その修行の道をたどる四国八十八箇所巡礼(お遍路)のために、現在でも多くの方が世界中から訪れている。室戸UGGp域内には、24番から26番の3つの札所(寺)があり、それぞれを新たにカルチュラルサイトに指定している。

自然と近代産業の発展の関係を伝えるサイトである「吉良川のまちなみ」は、品質の優れた「備長炭」の生産・出荷で発展した。備長炭の生産・出荷で得た富は、強い風雨から家を守るために施された水切り瓦や石垣の塀など、現在まで保存されている伝統的な建築物を残すまちなみを作り上げた。この建築遺産は、国の文化財保護法及び市の条例により保護されている。保護するだけでなく地域住民が組織する「NPO 法人吉良川町並み保存会」のメンバーがガイドをつとめ、広く観光客や地域の子どもらにその価値を伝えている。

E.2.3 INTANGIBLE HERITAGE 無形遺産

大地の恵みへの感謝と自然への畏怖の念をこめて行われている祭りや伝統芸能が、室戸UGGpの無形遺産である。吉良川の御田祭は12世紀の舞台芸能を今に伝えるもので、国の重要無形民俗文化財に指定されている。佐喜浜八幡宮では国の記録作成等を講ずべき無形の民俗文化財に採択された、社会風刺劇である「にわか」が演じられている。その「にわか」は土佐備長炭の交易で関係が深かった、関西の上方芸能の影響を受けている。「椎名の太刀踊り」や「シットロト踊」など県の文化財に指定されているものもある。これらの無形文化財は法律や条例によって指定されることで公的に価値が認められ、行政機関等から財政的支援を受けることができる。そうした祭りについて伝えるために、2016年には「室戸の神祭展」と題して室戸世界ジオパークセンターにおいて企画展を開催し、伝統芸能の普及を模索してきた。近年は人口減少の影響により芸能の継承が課題となっているが、男性にのみ許されていた舞踊に女性が参加する地域や、地域を挙げた取り組みとしてPTA組織が子どもらに伝統芸能を伝える



などの具体策が取られている。さらに室戸市と連携して記録映像を作成するなど、保存・継承への意識は高まってきている。

E.2.4 INVOLVEMENT IN TOPICS RELATED TO CLIMATE CHANGE AND NATURAL HAZARDS 気地震・津波対策

プレートが沈み込む南海トラフ周辺ではマグニチュード8クラスの巨大地震が、およそ100～200年間隔で繰り返し発生しており、前回の巨大地震（1946年昭和南海地震: M8.0/Mw8.4）からおよそ70年が経過している。地震及び津波への理解と、減災に関する知識を深めるための取り組みは、室戸UGGpの大きなミッションの1つである。E.1.5.教育プログラムの項目で述べた「防災まちあるき学習」に加え、室戸ジオパーク推進チームの1つの「まもる」チームでは地域住民すべての命をまもるために、社会福祉協議会と協力して津波到達予測時間内にすべての住民が避難場所まで到着できるのかの歩き確認を開始した。さらに拠点施設になっている「都呂津波シェルター」は、自然の家が主催する一泊二日の防災学習など、教育活動への利用も実施されており、室戸UGGpも協力体制をとっている。

その他自然災害

太平洋に突き出した室戸岬には毎年台風が襲来する。そのため室戸には、強い雨風から家屋や人命を守るためのまちづくりがなされ、それが現在まで残っている。台風に伴う豪雨に加えて、上述のように大地震に見舞われる室戸では地滑りも発生する。これらの町の景観（吉良川のまちなみ）や地滑り跡（加奈木のつえ）はサイトとして教育やツーリズムで活用されることで、自然災害の理解に役立てられている。地球温暖化に伴い強い台風の頻度が今後増加すると考えられている中、2018年9月には25年ぶりに勢力が「非常に強い」台風が室戸に襲来した。室戸市内のいくつかの建物が強風により損壊し、沿岸部に設置されている遊歩道の一部も破損した。室戸UGGpで「防災」と言うと地震・津波がメインになっていたが、毎年襲来する台風、しかも勢力が大きくなっている台風の被害から、いかに生活を守るのかも今後の室戸UGGpの防災のテーマとなる。

E.3 MANAGEMENT 管理運営

管理運営体制

室戸ジオパーク推進協議会は室戸市から経済的な支援を受ける公的に認められている団体であり、室戸ユネスコ世界ジオパークの正式な運営母体である。運営協議会には地元住民団体、民間企業、行政機関、教育・研究機関など、幅広いジャンルが参画している。室戸ジオパーク推進協議会では、予算や運営計画の検討と承認を行うとともに、事業の具体的な推進を図る室戸ジオパーク推進チームを置き、計画遂行と実効性を高めている（Annex 7 参照）。

1. 室戸ジオパーク推進協議会

地元住民団体、NPO法人、企業、国・県・市の行政機関、大学・研究機関等で構成し、運営全般について協議・検討する。

2. 役員会

室戸ジオパーク推進協議会会員から選任し、総会で議決すべき事項の原案の検討、ならびに計画の推進と進行管理を行う。

3. 顧問

室戸UGGpの地質遺産など、学術的な側面と運営に関するサポートのため、高知大学、海洋研究開発機構高知コア研究所、高知工科大学地域連携機構、高知県議会議員などが専門的な見地から、室戸UGGpの諸活動にたいして助言をおこなっている。

4. 専門アドバイザー

専門アドバイザーは、個人の持つ専門知識により協議会の活動を支援する。2017年度より、構造地質学、生物学、植物学、国際ネットワーク対応の専門家が専門アドバイザーに就いている。

5. 室戸ジオパーク推進チーム

室戸ジオパーク実行計画(2016~2019)に基づいて事業を実行していくための地域住民によって編成されたチームで、個別事業の企画、実行、評価を行う。実行計画に記載されている5つの目標を実現するため、「まもる」「まなぶ」「ひろめる」「もてなす」「かせぐ」の5つの推進チームが活動している。2013年から活動をしている「ジオツーリズム推進チーム」はツーリズムに特化した活動を展開している。

6. 事務局

室戸ジオパーク推進協議会が決定した事業を執行するために、地域住民、会員、関係団体、推進チームなどとの連絡調整、事業の企画と実施、情報収集や発信、拠点施設との連携を行う。

室戸ジオパーク第3期実行計画(2016年度~2019年度)

室戸 UGGp の基本構想である「室戸ユネスコ世界ジオパーク構想 2018~2028」に基づいて、4ヶ年の実行計画を設定している(E.7.1.参照)。基本構想は10年間の室戸 UGGp の長期的な目標とビジョンを示すもので、実行計画はその目標を達成するために、より具体的な行動指針を示している。現在第3期の実行計画に基づいて各事業を推進している。E.7.1.およびE.7.3.において後述するように、この実行計画は地域住民が中心となり協議し、内容が決定されている(Annex 7 参照)。協議会会員や連携協定を結ぶ団体所属の者もこの策定会には参加しており、地域住民及びパートナーの同意が得られている。

財政・予算状況

室戸ジオパーク推進協議会の財源は、市補助金、寄付金、事業収益などにより運営している。専門員の賃金や旅費などの経常的支出は市の補助金によって賄われており、前回の再認定時である2015年から一定して一般会計で毎年約2,500万円が予算化され続けている。その他にも収益事業のための事業会計や寄付金のための特別会計があり、必要に応じて一般会計に繰り入れを行い多様な事業計画が展開できるよう配慮している。

2018年度予算については、室戸ジオパーク推進協議会会員のうち、国際会議や国外地域研修に参加希望の会員に対する助成金を予算化した点が前回再認定時から大きく改善された点である。こうした予算編成によって、地域住民がさらにジオパーク活動に積極的に関わっていく環境ができている。2015年度から2018年度の収支決算は以下のとおりである。

予算(年度)	収入	支出	残高
2015	46,455,610	40,318,844	6,136,766
2016	73,823,143	73,035,087	788,056
2017	56,635,139	48,373,393	8,261,746
2018*	62,498,600	62,498,600	0

※2018年度に関しては、当初予算のため決算額ではない。

現在の室戸ジオパーク推進協議会事務局職員リスト

No.	名前	任用	任務	専門	時間	性別
1	和田 庫治	正職員	統括責任者	社会教育	35%	男
2	山崎 桂	正職員	現地責任者	防災	25%	男
3	正木 徹	正職員	予算管理	財政	25%	男
4	眞土 浩子	正職員	現場総指揮	ツーリズム	100%	女
5	川越 桂太	正職員	インフラ整備	ツーリズム	100%	男
6	吉本 昌弘	正職員	会計	防災	100%	男
7	中村 有吾	専門員	地理専門員	博士(自然地理)	100%	男
8	高橋 唯	専門員	地質専門員	博士(地質)	100%	男
9	小笠原 翼	専門員	国際文化専門員	国際関係(修士)	100%	女
10	遠枝 澄人	地域おこし協力隊	ツアー企画	環境教育	75%	男
11	長田 圭司	地域おこし協力隊	企画・広報	教育	75%	男
12	デットマン ミンダ	国際交流員	通訳・翻訳	日英通訳	50%	女
13	尾上 敦子	臨時職員	ガイド・観光案内	デザイン	100%	女
14	正木 千世	パート職員	ガイド・観光案内		75%	女
15	田本 梢	パート職員	ガイド・観光案内		75%	女
16	石川 あゆみ	パート職員	ガイド・観光案内		75%	女
17	舩吉 尚	パート職員	事務補助		75%	男
18	海老川 綾香	パート職員	事務補助		75%	女

- 常勤の地球科学者：地球環境科学で博士号(Ph. D. in Geoscience) を持つ専門員が 2 名(No. 7, 8)が常勤職員として勤務している。
- 女性の役割・活躍：
 - 現場総指揮官(No.4)は 2011 年から常に女性が担当しており、室戸ジオパーク推進協議会実施の各種ガイドツアー、予算管理、人員配置などあらゆる分野における現場での権限を一任されている。
 - 国際文化専門員(no.10)は、国際的なネットワークへの貢献及び構築を担当している。室戸ジオパーク推進協議会の設立以来、この役職は女性が努めており、GGN 総会や APGN CC 会議には、室戸 UGGp の代表として出席している。
 - 室戸ジオパーク推進協議会の専門アドバイザーの 1 人である古澤加奈は、日本国内の UGGp を含むジオパーク地域と連携しながら、特に APGN でのキャパシティ・ビルディングのプロジェクトで中心的な役割を負っている。さらに日本ジオパークにおけるジェンダー平等に関する意識向上及び、促進に関しても尽力している。古澤アドバイザーは室戸 UGGp から派遣される形で、UGGp 審査員としての任務も果たしている。さらにツーリズムを中心に、推進協議会の運営についても重要な助言を行っている。
 - 室戸市観光ガイドの会の実働ガイドとして実際に訪問客を案内しているガイドらの約 9 割が地域の女性らである。ガイドの会の副会長、事務局長、各部長はすべて女性が務め、団体の運営、ツアー開発に関して中心的な役割を担っている。その団体



の運営費用はガイド収益で賄われており、補助金などに頼ることなく独立した運営が実現できている。

- 室戸市連合婦人会は、地域の女性らで構成されている団体であり、会員数は約 400 名である。2015 年には室戸世界ジオパークセンターで開催された「食のキャラバン」において、巨大地震発生時に何を食べて命をつなぐかという減災をテーマに、救荒植物を用いて郷土料理を作成し、イベント参加者にふるまった。
- 国際ソロプチミスト室戸は、女性と女兒の生活の向上を目標とした奉仕活動を行う女性団体である。国内外のネットワークの中で活動しており、地域の女性 25 名が会員として登録している。2018 年に創立 20 周年を迎え作成された記念パンフレットには、室戸 UGGp の紹介ページを設けるなど、日本各地で行われるネットワークでの集まりでは、室戸 UGGp の取り組みを講演するなど、PR 活動を独自で行っている。

E.4 OVERLAPPING 重複（オーバーラッピング）

室戸 UGGp は全域およびその一部においても、ユネスコが認定した他のサイトとの重複はない。

E.5 EDUCATIONAL ACTIVITIES 教育活動

- まがりラボ：小学生以下の児童を主な対象とする、流木や岩石を使った工作や実験を通じて地球科学・環境科学を楽しく学べるイベント。長期休暇期間の週末を中心に、室戸世界ジオパークセンターで実施している。
- 環境学習のための体験プログラム
 - ・磯遊び：3～10 月の干潮時に、ジオパークセンター付近の海浜で生物や地形を観察するプログラムであり。参加者は未就学児から小学校低学年の児童らとその保護者、という組み合わせが多く、実際に海の生物を触りながらインストラクターから生態について教わる。
 - ・生き物ウォッチング！：6～12 月に複数回、1 回 1 泊 2 日で谷地森秀二博士が講師をつとめ、自然の家において実施される。参加者は小学生の子を持つ親子連れが多い。トラップによって捕獲したコウモリやネズミの観察、無人カメラによる大型野生動物の観察（野生動物の分布調査を兼ねる）を研究者と共に行うことで、児童らは「初めての研究活動」を体験する。2017 年 12 月からは自然の家と共催することで、青少年向けの野外体験教育としての側面も強化された。
 - ・サイクリング探索：年間を通して募集が行われており、室戸世界ジオパークセンターを発着地点として、レンタルバイクで室戸岬の海岸線を走りながら地形を体感するとともに、地質遺産について学ぶ。教育旅行で室戸を訪れた中高生の参加が多い。
- 教員免許状更新講習：独立行政法人国立青少年教育振興機構および自然の家主催の講習に、室戸 UGGp の地球科学の専門員が講師として参加。学校教育におけるジオパークを活用した持続的な地域発展の重要性を伝えるとともに、自然体験活動の指導法に関する講座を実施している。



E.6 GEOTOURISM ジオツーリズム

新たな試み：

ガイド養成講座を 2008 年以来毎年開催している。2014 年と 2016 年には、ガイドがツアー参加者に一方的な情報の提供をするのではなく、ツアー参加者が実際の体験と、彼らの感性や感覚を媒介にして、より主体的にガイドツアーに参加するのを手助けするガイド手法である「イ

ンタープリテーション」について学ぶことのできる講座を開催した。特に 2016 年の講座を受講・修了した者は「NEAL(Nature Experience Activity Leader: 自然体験活動指導者)」の資格を獲得できるようにしたことで、20～30 代の若い世代の受講が増加した。

「室戸市観光ガイドの会」は実際にインタープリテーションの手法を取り入れたガイドツアーである「感じる室戸」を開発し、通常ツアーとして実施している。それは主に教育旅行の現場で需要が高く、新たに会員となった若い世代のガイドが案内することが多い。「室戸市観光ガイドの会」は、そうした積極的な取り組みが評価され 2016 年度にエコツーリズム大賞特別賞を受賞した。

新たなガイドコース：

前回の再審査時(2015 年)にもすでに沿岸部や山間部の自然遺産をテーマにしたもの、歴史や町並みをテーマにしたもの、体験型ガイドなど複数のガイドコースがあったが、この 4 年間で以下の新たなガイドコースが誕生している (Annex9 も参照)。

- 1) 灯台ぐるりウォーク：室戸市のシンボルである室戸岬灯台までの短い遍路道を、植生や動物を観察しながら歩くコース。
- 2) 芋農家がガイドする崎山台地での収穫体験ツアー
- 3) 佐喜浜のミニ八十ヶ所をめぐる軽いハイキングツアー
- 4) 炭焼き職人が窯作りを教える「炭窯づくり体験」
- 5) 炭焼き職人と備長炭を焼いてみる「備長炭作り体験」

※2～5 のガイドは地域の生産者がガイドとなり、産業のローシーズン時に本業以外の収入が得られる仕組みが期待できる。

ジオツーリズム推進チーム

2013 年から活動している「ジオツーリズム推進チーム」は地域住民によって構成され、ツアー開発を行っている。その中で誕生したツアーとして、海成段丘を舞台に行う収穫ツアー、港町を中心に漁業と町の成り立ちについて知るまちあるきツアーが年に数回定期的の実施される特別ツアーとして毎年実施されている。



ガイド団体の Capacity Building

室戸 UGGp 内には 3 つのガイド団体があり (E.7.2.連携協定団体の項目参照)、それぞれトレッキング、歴史的まちなみ、室戸岬の自然と、メインでガイドする場所が異なっている。しかし 2017 年には 3 つのガイド団体連携で「スキルアップ研修」が実施され観光客の室戸 UGGp 周遊に向けての取り組みが始まっている。さらに「室戸市観光ガイドの会」が主催し、広く地域住民に開かれている英語クラスが、2016 年 7 月から始まり継続されている。

E.7 SUSTAINABLE DEVELOPMENT & PARTNERSHIPS 持続可能な開発&パートナーシップ

E.7.1 SUSTAINABLE DEVELOPMENT POLICY 持続可能な開発に関する方針

室戸 UGGp は 2008 年の室戸ジオパーク推進協議会設立時から、(1)地質遺産の保存・保全、(2)教育への活用、(3)持続的な経済開発、(4)防災・減災への取り組みをその活動の柱とし、地域住民が誇りを持って自然とともに住み続けることのできるまちづくりを目指している。2017 年度に策定した室戸 UGGp の基本構想である「室戸ユネスコ世界ジオパーク構想 2018～2028」では、「まもる」「まなぶ」「もてなす」「かせぐ」「ひろめる」の 5 項目についてそれぞれ目標を示し、持続可能なまちづくりを目指すことを明らかにした (Annex8 参照)。

2015年9月に国連サミットにおいて「持続可能な開発目標（SDGs）」が採択されてからは、「住み続けられるまちづくり」「海の豊かさを守ろう」など、室戸 UGGp の活動目標に SDGs を関連付けて推進している。それら SDGs の理解を進めるために室戸市立市民図書館と連携し、特設コーナーを設けるとともに、ジオパークマスター講座でも取り扱っている（E.1.5 参照）。

E.2.4.でも示したように、室戸 UGGp の持続可能性は自然災害に強いコミュニティを作らなければ保障されない。全ての年齢の地域住民を対象にした定期的な防災学習を実施するとともに、ガイドツアー開始前には必ず地図と口頭での避難路の案内がなされている。ソフト・ハード両面から災害に強いジオパークを目指しており、地域住民の意識はますます高くなっている。

E.7.2 PARTNERSHIPS パートナリシップ

パートナーシップ

- 室戸ジオパーク推進協議会役員：室戸市商工会会長（協議会副会長）、室戸市観光協会会長（協議会理事）、ダイドー・タケナカビバレッジ代表取締役専務（協議会理事）など、商工団体、観光業、民間企業の代表者が就任している。
- 室戸ジオパーク推進協議会会員：協同キラメッセ室戸、エフビットコミュニケーションズ、JTB 中四国高知支店、室戸市観光ガイドの会、有限会社ちかみ、室戸ショッピングセンター、高知県旅館ホテル生活衛生同業組合東部支部など、室戸 UGGp 域内の団体や企業が会員として加盟している。
- 連携協定締結団体：
 - 1) ガイド団体：「室戸市観光ガイドの会」「吉良川町並み保存会」「佐喜浜躍動天然杉郷土の森を守る会」の3団体とそれぞれ連携協定書を交わしており、ガイド養成講座の実施やガイドコースのインフラ整備、ガイドツアーの広報、教育分野での連携を強化している。
 - 2) 国立室戸青少年自然の家：毎年開催している体験教育普及イベント「くろしお祭り」でのジオパークブースの出展（津波実験、顕微鏡体験など）、連休・長期休暇時には自然の家所有のクルーズ船を用いたジオツアー（ミニクルージング）を開催。E.1.5.教育プログラムの項目も参照。
 - 3) 室戸ジオパーク推進協議会・高知工科大学地域連携機構・国立研究開発法人海洋研究開発機構(JAMSTEC)高知コア研究所の三者で連携協定書を締結。室戸世界ジオパークセンターにおける企画展示やイベント実施が強化されている。
 - JAMSTEC との連携事業として、地球深部探査船である「ちきゅう」をテーマにした特別展示やイベントを2016年に実施した。室戸沖の深海をイメージした特別展示を地元高校生と共同で作成し、「深海博」として室戸世界ジオパークセンターで行った。「深海博」期間中には地元飲食店で深海魚を使用した「深海丼」が提供されるなど、地域全体でイベントを盛り上げる体制が取られた。さらに多くの地域住



民が高知県内の港に停泊していた「ちきゅう」見学ツアーに参加し、実際の探査船を間近で観察できる貴重な機会を得た。

- 4) 遍路の駅・夫婦善哉（協議進行中）
- 5) 国際ソロプチミスト室戸（協議進行中）
- 6) 株式会社土佐力舎（協議進行中）
- 7) 室戸市商工会（協議進行中）

● 協力団体

イオンリテール株式会社/株式会社マルナカ: 電子マネー（ご当地 WAON カード）での売上額に応じた寄付を得ている。これらの企業とは、ショッピングモール内でのジオパークの普及イベント「スプリングフェスティバル」や室戸世界ジオパークセンターでの WAON カードの販売を行うなど、双方の利益向上のため協力している。

ブランド戦略とプロモーション

- 1) 室戸ジオパークロゴマークの活用：室戸 UGGp 域内の生産者や自営業者が自身の販売する商品に、室戸 UGGp がデザインしたロゴマークシールを貼り販売している。ロゴマーク使用希望者は申請書を協議会に提出し、事務局で審査ののち使用許可が出される。
- 2) 「室戸びと、進む」事業：室戸 UGGp 域内で活躍する生産者や自営業者 70 名を「室戸びと」と呼び、ポスター、ウェブ、マップで紹介している。「室戸びと」の生産する商品や製品は、オンラインショップや東京秋葉原の日本百貨店で販売されている。2018 年にはプロモーション活動として、東京駅近くにあるレストラン「さかば」において、室戸の農作物、鮮魚、加工食品を使って調理された料理が客に提供されるイベントも実施された。
- 3) 「ひろめるチーム」：地域住民で構成される「ひろめるチーム」は、観光客らに室戸 UGGp をより普及させるための親しみやすいキャッチコピーを 2017 年に作成した。キャッチコピー案は一般募集され、応募数 214 点の中から一般投票と選考会を経て「先っちょには訳がある」がコピーとして決定された。
- 4) 「かせぐチーム」：同じく地域住民で構成されている当チームは、室戸 UGGp のストーリーを魅せることのできるお土産品を開発している。室戸海洋深層水を使用した塩と室戸産の野菜、お茶、炭パウダーを混ぜた商品の開発のため、地元の海洋深層水商品製造会社と連携しながら事業を進めている。



E.7.3 FULL AND EFFECTIVE PARTICIPATION OF LOCAL COMMUNITIES AND INDIGENOUS PEOPLES 地元コミュニティや先住民族の全面的かつ効果的な参加

室戸ジオパーク推進チーム

室戸 UGGp の基本構想(2018 年～2028 年)に組み込まれている 5 つの取組目標、「まもる」「まなぶ」「もてなす」「かせぐ」「ひろめる」と連動した 5 つのチームが、地域住民によって編成されている。それら地域住民は室戸 UGGp の基本構想を基盤にした「実行計画(2016～2019 年度)」策定会にも参加するとともに、内容を決定している（Annex 7 参照）。つまり地域住民らが自ら考案した実行計画を、自らで実施するという形を取っている。2017 年には各チームのリーダーが地域住民から選出され、定期的にミーティングを開き活動している。毎年 2 回すべてのチームが一同に会する「全体会」の場も設けられるため、チームを超えた連携も実現されている。

地域住民との関わり

- ジオパークいどばた会議（ジオばた会議）

室戸 UGGp 内の各地区の集会所/公民館に地域住民が集まり、その地区に関する情報交換を事務局員と行う取り組みが定期的に行われている（D 指摘事項 3 参照）。

- 老人クラブへの聞き取り調査

室戸市観光ガイドの会会長主催で市内老人クラブへの聞き取り調査が開始され、主に「過去の自然災害の歴史」と「町の移り変わり」について調査している。

※室戸 UGGp は地域住民が持つ記憶を町の歴史や文化を写し出す重要な一次資料と認識している。それら情報は新たなガイドツアーの題材や、室戸 UGGp の文化人類学的な資料になる。さらに室戸 UGGp の地域における認知度向上にもつながる取り組みである。



若い世代/移住者の参画

地域住民自ら積極的に集まる場を多く持つ室戸 UGGp では、一度都市部に出て帰ってきた若い世代や移住者らのためのコミュニティを複数提供している。推進チームやガイド団体にはそうした者が多く属しており、室戸 UGGp の推進活動（主に教育やツーリズムの分野）に関わるとともに、彼ら自身がこの土地で生きていくためのツールとしても活用されている。

E.8 NETWORKING ネットワーク活動

- GGN 会議及び地域研修への参加。

1) 室戸 UGGp は 2012 年から毎回 GGN 会議及び APGN 会議に参加している。

2) Regional Course on UNESCO Global Geoparks (ランカウィ UGGp) に 2016 年から毎回参加している。

2018 年には室戸ジオパーク推進協議会の助成金の制度を利用し、地元ガイドが上記の GGN 会議と Regional Course に参加し、口頭発表と経験を共有した。

- 共同プロジェクト「アジア太平洋地域におけるジオパークネットワーク活性化に向けたキャパシティ・ディベロプメント支援事業」(D. 指摘 10 参考)

- 2016 年にサブリーダーとして当事業をコーディネート、及び実施。
- 日本国内の他の UGGp 地域及び UGGp 準備地域と連携し、アジア太平洋地域においてジオパーク認定を目指す 7 地域を日本ジオパークネットワーク全国大会に招聘 (2017 年)。
- タイのサトゥン準備地域（当時）において、日本国内の他の UGGp 及び準備地域と共同でワークショップを開催し、ジオパーク運営、地域住民との連携方法について経験を共有 (2017 年)。

- Capacity Building をテーマにする会合での経験共有

2018 年 4 月 Capacity Building Workshop for Geoscience Popularization(香港 UGGp): 室戸 UGGp のガイド活動を紹介。

2018年5月アジア太平洋地域ユネスコ国内委員会担当者研修会(隠岐 UGGp): 地域連携の方法、ジオパーク運営について経験を共有。

- 審査員の派遣：室戸 UGGp から 2017 年と 2018 年に審査員を派遣した。
- 日本国内の UGGp と連携し、イランのケシュム UGGp の手芸品ショップで働く女性たちの活動に共感し、支援する目的で室戸 UGGp のグッズを送付。応援メッセージを記載したポスターも作成した。
- ランカウィ UGGp との姉妹提携締結
室戸 UGGp は 2018 年 10 月にランカウィユネスコ世界ジオパークと姉妹連携協定を結んだ。今後の具体的な連携事業として室戸とランカウィの地元高校生同士の実際の交流事業（短期交換留学制度）実施などについて協議を進めている。



地域レベルのネットワーク

- こうちミュージアムネットワーク：高知県内の博物館及びそれに準ずる施設が加盟している。定期的な研修会で展示内容に関する情報交換や、室戸 UGGp の各種ガイドツアーや取り組みなどをウェブ、機関誌などを通じて情報発信することができる。

E.9 SELLING OF GEOLOGICAL MATERIAL 地質鉱物資源の販売

室戸 UGGp 及びすべての関連団体が地質鉱物資源の取引に一切関わっていない。

F. CONCLUSION 結論

室戸 UGGp はこの 4 年間に於いて、2015 年に行われた再審査の指摘事項の改善と室戸 UGGp 基本構想に基づく多様な取組を行ない、域内の地質遺産の保全、教育、ツーリズムにおいて次のような成果を上げることができた。

【成果】

- 2015 年の再審査における指摘事項についてはサイト見直しや運営体制、他 UGGp との連携など、すべての指摘事項に対してアプローチを行い改善できている。
- サイト見直しにより多くの地質遺産や文化遺産が新たに整理され、保全の意識が高まるとともにジオツーリズムの幅が広がった。
- 小・中・高校がジオパーク学習に取り組むことにより、郷土理解とそこから醸成される地域の誇りを、未来を受け継ぐ子どもたちが持つようになった。
- 室戸世界ジオパークセンターの展示物の拡充及び室戸 UGGp 域内に拠点施設を設置したことで、室戸 UGGp の多様な情報を提供し、域内の周遊性を高めている。
- 市民が活動の主体もしくは協働して行うジオパーク活動が着実に定着してきている。
- ガイド養成講座やガイドツアーの内容を増やしたことで、地域の若年層がガイド活動に興味を持ち始めた。ガイドの平均年齢が下がり、持続的な活動のための体制が整っている。
- ガイドを中心に地域住民が GGN 会議や地域研修に参加し、現場での経験を共有することで、他 UGGp/準備地域に対するキャパシティ・ビルディングが実施できている。

【今後強化する取組項目】

- 経済活動活性化のため、ジオツーリズムをメインにしたマーケティングルートの確保。
- 室戸 UGGp 関連商品および域内で生産されている農作物、製品のブランディング。